

# 東アジアにおける高齢者ケアに関する比較研究 —介護職員の高齢者ケアに関する価値観と自尊感情の日韓比較研究—

古川和稔<sup>\*,1)</sup>、野田由佳里<sup>1)</sup>、Back Jong Uk<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>聖隷クリストファー大学、<sup>2)</sup>カトリックサンジ大学(韓国)

## 【目的】

本研究の目的は、東アジアにおける高齢者ケアに関する研究の導入として、日本と韓国の介護職員の高齢者ケアに関する認識を比較し、両国間の差異や課題を検討することである。

## 【方法】

### (1) 日本の調査対象者

A 県老人福祉施設協議会に協力を要請し、同協議会内に設けられた 12 の委員会の委員長が責任者を務める 7 施設と、共同研究者と関わりがある A 県内の 2 施設の、合わせて 9 施設に勤務する、介護職員、生活相談員、施設ケアマネジャー、看護職員、リハビリテーション専門職員、栄養士など、ケアに関わる全職員を対象とした。

### (2) 韓国の調査対象者

韓国の共同研究者と関わりがある韓国内の B 市内に所在する特別養護老人ホームのうち、書面により調査協力の回答が得られた 6 施設に勤務する、介護職員、生活相談員、看護職員、リハビリテーション専門職員、栄養士など、ケアに関わる全職員を対象とした。調査内容は、介護の仕事に対する自己認識(4 問)、現在の仕事に対する満足度(4 問)、高齢者の生活に関する意識(4 問)、自尊感情(10 問)について質問項目を設定した。

なお、本研究は聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認を得てから実施した。

## 【結果】

日本では 195 通（有効回収率 56.5%）、韓国では 147 通（有効回収率 55.5%）の有効回答が得られた。本研究により、日本の介護職員は韓国の介護職員と比べ、介護の仕事について自らは「専門性が高く、社会的に意義のある仕事」と認識している一方で、「世間からの評価が低い仕事」と認識していることが分かった。

## 【考察】

日本においては、「世間からの評価」に対する認識の低さが、仕事の満足度の低さ、自尊感情の低さにつながっていると考えられる。一方、韓国の介護職員は高い自尊感情を示したが、この高い自尊感情に対しては、第三者による業務評価の機会を設けるなどの対応により、一定水準のケアレベルを保つ仕組みを検討する必要があると考える。

## 【学会発表】

### (1) 野田由佳里、古川和稔：自尊感情に着目し就業意識を高める養成教育のあり方

介護職員を対象とした日韓比較調査より、第 23 回日本介護福祉教育学会大会（2017 年 2 月；白山市）。

## 【論文発表】

### (1) 介護職員の高齢者ケアに関する認識の日韓比較研究；ケアに対する認識と自尊感情に着目した分析。古川和稔、野田由佳里、柴崎かがり、Back Jong Uk，2017，自立支援介護学（投稿済，査読中）。